

<活用の仕方>

本資料集は、次のような項立てで構成しています。

- (1) 「困っていること」はなんだろう？

子どもたちの声を吹き出しにしました。



やることが
分からない！

- (2) 「要因」を考えました。

(例) **語彙理解や短期記憶が弱い。聞きとりにくさがある。**

困っている要因について、**太字**で示しました。結果だけでなく、上手くいかない原因を考えることが、適切な実態把握につながります。

- (3) 要因に応じた「対応」について、大きな見出しを に示しました。

(例)

そこで…

視覚的な手がかりの工夫をしよう！

また、そこから考えられる具体案を に示しました。

(例)

①ファイルの活用

連携の
ために…

- (4) その他、家庭との連携を図る上でのアドバイスは、

黄色の吹き出しと家のマークで示しました。

また、小中一貫教育への取組の中、連携が上手く
図れるようなエッセンスも盛り込んであります。



ちょこっとコラム 意欲をつなぐ学習評価・評定

漢字を覚えることがとても苦手で「注意力」に課題のあるKさんは社会科が大好き！知識も豊富で、中学校最初の中間テストに向けてたくさん勉強もしました。ところが返ってきた答えは100点満点中43点。がっかりしたKさんは「努力してもいい点取れないなら、努力しない方がいいかも…。」とつぶやきました。

社会科担当が誤答を分析してみると、『教科の内容は理解できていても、漢字で書くべきところを平仮名で書いたり、漢字を書き間違えたりすることで〇にならない』『記号で選ぶべきところを語句で選んでしまう』等による誤りが多いことに気付きました。そこで、次のテストで、『漢字指定の問題を減らす』『漢字の点画誤記の許容範囲を広げる』『選択肢から記号だけではなくその語句を選ぶ』といった工夫をしてみたところ、Kさんの点数が大幅にアップしました。理解していることを適切に評価されたことが、「もっとがんばろう！」というKさんの意欲につながり、さらに努力するというプラスのサイクルをもたらしました。

子どもたちが学習をあきらめないために、学習への意欲をつなぐために、指導の工夫だけでなく学習評価・評定の工夫にも取り組みたいものです。